

知るべきのみ。

## 第二節 人種

人民と土人とは、國家社會の組織上、其の基礎たるは、論ずるを要せざるも、就中人民は、之れが基幹たり。是を以て人民の賢愚強弱は、直に國家社會の文野優劣を現實し、隨て人は渾て國家の諸制度より、有らゆる社會の現象に於ける研究の支柱となるものとする。苟も國の内治、外交、軍事を初め、社會の學術、技藝、農工、商業等の萬般の現象を研究せんと欲せば、必ず第一に其の國人の性情文野を知悉せざるべからず。人民の性情文野の研究は、須らく人種の起原由來に遡て、其の變遷と現状とを精確にせざるべからず。人種の起原變化、由來は、宜しく人類學の研究に待つべし之れに待たざれば、精密に調査し得ざるや論なし。

現時新疆に住居する人民は、單に其の皮膚の色を以てすれば、悉く黄色人種とす。然れども、其の先天的性質、即ち生來の容貌、體格、性情及後天的性質、所謂生後に得たる言語、風俗、習慣等に就て觀察すれば、幾多の異人種より成れるを見る。今之を類